

ケベック¹のいくつかの地名の新たなカタカナ表記の提言

リチャー・ルクレル

Ph.D. インディペンダント・リサーチャー

シルリー (ケベック)

この小論の目的は、ケベックの地名の日本語表記を、ケベック地名委員会が採用した正式地名や国連地名標準化会議での決議を尊重した地名表記に改めることを提言することである。

現在、ジル・ヴィニョーの国²であるケベックの地名のいくつかは、ケベックの魅力を紹介する日本の観光関連出版物においては、英語での発音に従ってカタカナ表記されている。この現況においては、ケベックを訪れる日本人観光客にケベック社会の真正な姿を伝えることはできない。

地名：領土についての住民のアイデンティティを示すための道具

日本人の中には、北米大陸には760万人もの住民で構成される一つの民族が、1,667,441キロ平方メートルもの領土、つまり、日本列島の面積の4.6倍もの領土に現在暮らし、フランス王の名の下に、フランス人探検家ジャック・カルチエ(1491-1557)によって、領有を宣言した1534年以来独自に文化と言語を守り続けているⁱⁱⁱが、そのことを知らない者もいる。今日、この国は、風景や気候が北海道に似ており、まだあまり人が住んでいない。人口密度は一平方キロメートル当たり4.6人しかなく、日本の人口密度である350.3人に比べると、人口密度が非常に低いことがわかるⁱⁱⁱ。

ケベックの現実には日本ではあまり知られていない。ヌーヴェル=フランスの急速な人口増加を望んだフランス王の影響の下、将来性のあるこの土地に惹かれ、フランスから来た最初の植民者たちは、より良い将来を望みつつ、17世紀の初めからこの新たな土地に移住した。今日のケベックはフランス語使用の国(ナシオン)である。ケベックの市民は、自分たちの過去を誇りとし、数世代にわたつ

¹ 訳注 本論では、Le Québec をケベックと表記する。

² 訳注 ジル・ヴィニョー Gilles Vigneault (1928年10月27日生まれ)は、ケベックの著名な芸術家である。詩人、物語作者、歌手、作曲家として活動している。

て、フランス語の地名を用いることで、領土を社会言語的な共同遺産としてしるし付けてきた。

ケベックへの旅行を扱う日本の旅行者（JTB、日通旅行、プレイガイドツアーなど）によるケベックの観光案内のパンフレットやウェブサイトと一般的な観光案内書を調べると、これらの出版物で用いられている地名と公式の地名の間に歴然とした違いがあることがわかる。たとえば、イースタン・タウンシップス、ローレンシャン、モンリオール、マウント・ロイヤル、マウント・トランブラン、ニューフランス、オールド・モンリオール、ケベック・シティ、セント・ローレンス川といった英語での地名に由来する地名表記が、これらの出版物で一般に用いられている。

現在、日本の観光関連出版物の大部分が採用しているカタカナ表記は、国連地名標準化会議で採択された幾つかの決議に準じていない。このような状況であるから、ケベックの主要な地名はすべて、日本語においては、取り入れたのが英語発音だったゆえに、『国は教育機関、運輸業者、メディアのような公共機関・私的機関が、出版物において、現地で使われていない地名を使うことを減らし、少なくとも、今後は、標準化された現地で使われる地名を用いるよう、説得するために集中的に努力すべきだという』^{iv}第5回会議の第13決議（1987年）にもかかわらず、英語化されているのである。

英語で書かれた資料から情報を得ているので、日本の翻訳者や旅行者は知らず知らずのうちに、ケベックの言語的特殊性を無視するに至っている。幸いなことに、この事実は、この件について国際基準を尊重し、フランス語の発音に従って表記している日本で出版されている世界地図の類では、『地名の国際的標準化の一環として、一国の内部にまるまる位置している地理的実体を指示するのに用いられている現地で用いられていない地名の使用は大至急できる限り制限される』^vことを奨励する第2回会議の第29決議（1972年）にもかかわらず、現用の地名（モンレアル）に比べていつも人気があるモンリオールを除いては、確認されなかった。

これらの事実にたいして、ケベックの文化的遺産の一要素を無視するような現行の表記を廃し、ケベックの地名をフランス語化した表記に書きかえるように、地名表記に関する取り決めを尊重するよ

う働きかけることが必要である。

ケベックの地名の新しいカタカナ表記にむけて

ケベックのいくつかの地名のフランス語読み表記が日本語には現在存在していないことを鑑み、公的に用いられているケベックの地名の発音に似た地名を提案したいと思う。³

表1は、現在の圧倒的な使用状況と、日本列島で流布している観光関連書類で使われているケベックの主要な地名のカタカナ表記をフランス語化できるような新しい表記を示している。フランス語と日本語の間に音声の違いがあるので、これらの地名のももとの発音がよく伝わるようなカタカナでの書きかえを提案する。

現在の カタカナ表記	カタカナが示す 地名(英名)	公的な地名 ^{vi} (仏名)	新しく提案する カタカナ表記
イースタン・タウンシップス	Eastern Townships	Estrie	エストリ
モントリオール	Montreal	Montréal	モンリアル
マウント・ロイヤル	Mount Royal	Mont-Royal	モン・ロワイヤル
マウント・トランブラン	Mount Tremblant	Mont-Tremblant	モン・トランブラン
ニューフランス	New France	Nouvelle-France	ヌーヴェル・フランス
オールド・モントリオール	Old Montreal	Vieux-Montréal	ヴュー・モンリアル
オールド・ケベック	Old Quebec	Vieux-Québec	ヴュー・ケベック
ケベック・シティ	Quebec City	Québec	ケベック
セント＝ローレンス川	Saint Lawrence River	Fleuve Saint-Laurent	サン・ローラン川 ^{vii}
ローレンシャン	The Laurentians	Laurentides	ローランチッド

³ 訳注この段落の後、一段落がカタカナの説明に当てられているが、日本語を解するこの翻訳の読者には不要とみなし、割愛した。

結語

国連の決議に従い、ケベック政府公認の地名に一致しているゆえに、これらの新しい地名を採用すれば、日出る国日本において、ケベックの違いがよりよく伝わるであろう。

これらのカタカナ表記は、日本列島の数多くの旅行代理店や書店で手に入る観光関連出版物を通じて日本に紹介されているケベックのしばしば曖昧であるイメージを立て直すことができるだろうから、有益であろう。

古川和美訳

ⁱ 原註 地名についての国連の専門家集団 (GENUNG). 1967年、1972年、1977年、1982年、1987年、1992年、1998年、2002年の8回の国連地名標準化会議で採択された決議. 第22回 GENUNG セッションのためにカナダ天然資源省が準備した資料 GEN/22/(b). ニューヨーク、2004年。インターネット上の文書 unstats.un.org/unsd/geoinfo/uncsgnresolutions-fr.pdf

ⁱⁱ 原註 ケベック統計院. 世界の中のケベック, 社会経済的統計. ケベック, 2005年9月. インターネット上の文書 www.stats.gouv.qc.ca/publications/economi/que_monde.htm p.152.

ⁱⁱⁱ 原註 同書, p.136 と p.152.

^{iv} 原註 GENUNG .前掲書 . p.81.

^v 原註 同書 . p.76

^{vi} 原註 ケベック地名委員会 . インターネット上の地名 . ケベック , 2005 . インターネット上のデータベース www.toponymie.gouv.qc.ca/topos.htm

ヌーヴェル=フランスとヴュー=モンレアルという地名については、ケベック地名委員会では、公的に認められていなかった歴史的な呼称であることを記しておく。

^{vii} 原註 漢字の「川」は、フランス語で「川」を意味するが、ここでは、書き替えではなく、むしろ地理的実体を示す日本語の用語である。